

平成19年度文部科学省事業「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

## ダブルホーム制による、いきいき学生支援

～地域協働による、学生の自律を目指す、予防的環境の構築～

第二のホームで  
アップグレードを!

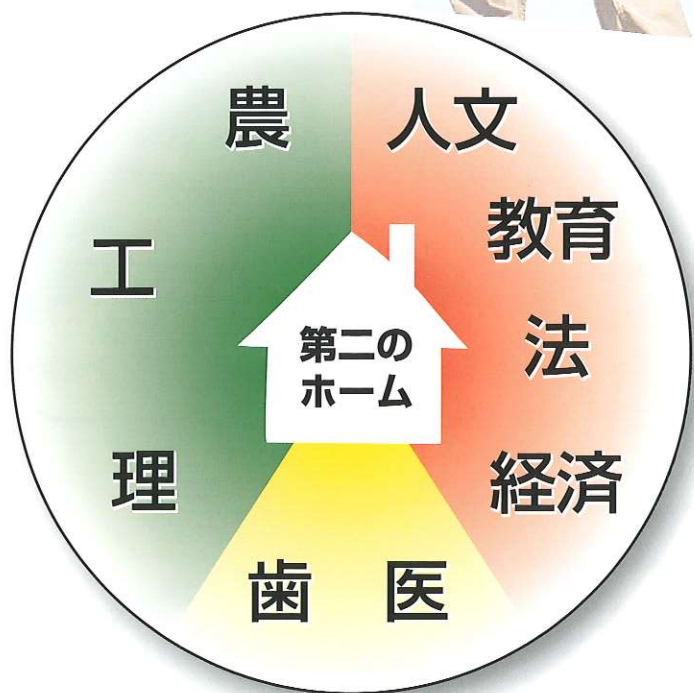
ここから始まる、  
私の新しいキャンパスライフ

### 第二のホーム

この取組は、皆さんが日常を過ごす拠点（ホーム）を、学部・学科・学年の枠を越えて形成するものです。研究室やゼミ等、学部・学科の専門教育を行う従来の拠点である第一のホームに対して、新しい第二のホームは、文系・理系・医歯系の学生が集まる総合大学の特性を活かし、学部・学科・学年を越えて構成します。

### 地域で活動できるプログラム

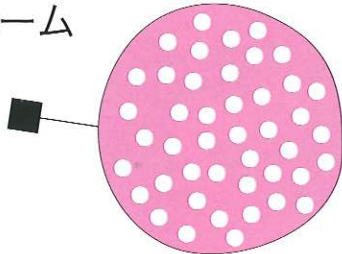
第二のホームでは、本学の教員が地域と連携して取り組んでいる教育プログラムや研究プロジェクトに関わり、地域住民の立場から調査活動を行います。現在、第二のホームでの活動を予定しているプロジェクト等は、長岡市栃尾地区で行っている「雁木(がんぎ)づくり」、佐渡市で行っている「民俗調査プロジェクト」、新潟市西区で行っている「西区DEアート」のほか、中国・韓国等の国際交流協定締結大学の研究プロジェクトの関係者、教員・学生との交流、学内の最先端の研究等です。どのプロジェクト等の調査活動を行うかは、それぞれのホームで決定することになります。また、長岡市や佐渡市へのバス移動等は大学で支援します。



## 🏠 ダブルホーム制とは？

第二のホームは、1～3年生各8名、合計24名程度の規模で構成します。このホームには分野を異にする教員2名と教育支援員(名誉教授、同窓会会員など)および職員が各1名加わり、ホームの運営に関してサポートします。また、このホームを経験し、活動のポートフォリオを完成した4年生がピアサポートとして参加する予定です。

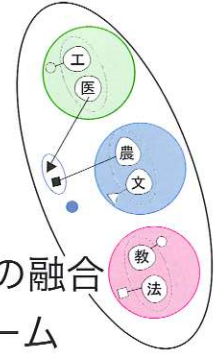
第一のホーム



各学科のクラス

+

第二のホーム



文・理・医歯系の融合  
した少人数のホーム

自らの専門性の活かし方

課題に適切に対応する力

生活者(地域住民)の視点

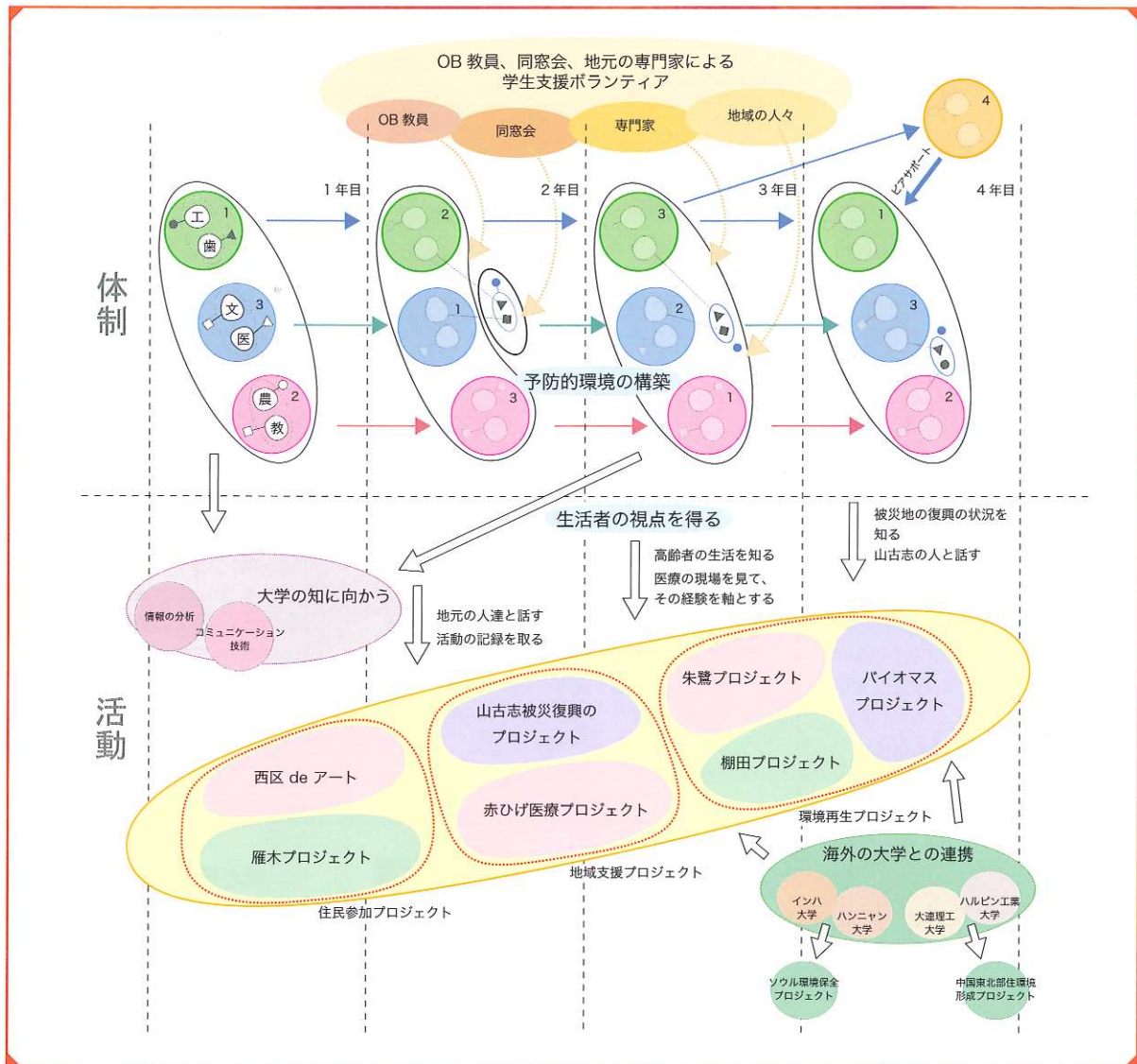
この活動が  
もたらすもの

卒業後も財産となる  
ネットワーク

いきいきとした学生生活

コミュニケーション能力

このホームは、大学を離れ、本学がすでに地域と密接に関わりながら推進している教育プログラムや研究プロジェクトの場に訪れることを主な活動とします。



## 〔活動例〕

- 教育プログラムや研究プロジェクトを事前調査の上、その役割や課題等について、地域の人たちと話し合う
- 学内の研究室を訪ね、各教員が行っている研究プロジェクト、いわゆる「大学の知」を調査する
- 中国・韓国の拠点大学を結んで、留学生とともにそれぞれの地域について調査し、問題点等について住民と話し合う

これらの活動では、学生は生活者の視点でこれらのプロジェクトを観察し、そこに住む地域の人たちと対話することが中心的な内容となります。

運営に関するガイダンスの後、各ホームごとに、1年を通して向かうテーマを選びます。各ホームでは、それぞれメンバーの専門性を活かし、地域の課題調査や住民との話

し合いの場・活動スケジュール等を主体的に設定します。地域に出る活動は、土日を利用して3ヶ月に1度程度行われ、隔週の土曜日には準備のためのミーティングを行います。また、学生一人一人がこれらの活動をポートフォリオに記録していきます。

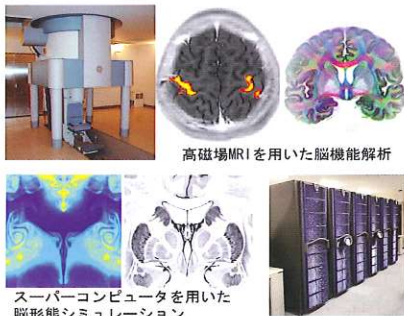
# プロジェクト紹介



## 学生と住民との協働・ 新潟県長岡市栃尾表町での 雁木づくり

古い町家が並ぶ表町地区で、壊れた雁木を毎年ひとつずつ自力建設している活動です。町の人たちと学生とが協働して、1年かけてデザインから建設までを実際に行い、表町全体の環境を保全・創造しています。平成9年から始められたまちづくりです。

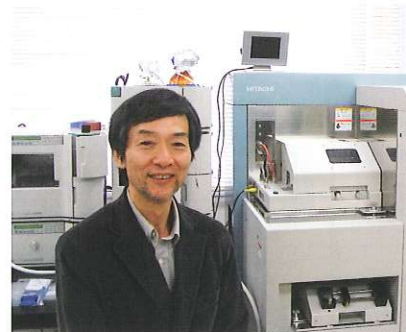
工学部 西村伸也教授  
佐佑明彦准教授



## こころを科学しよう！

統合脳機能研究センターは「こころ」の科学的解明を目的として文部科学省中核的研究拠点形成プログラムによって確立された研究組織です。臨床医と物理工学や心理学の専門家が一体となって研究を進めています。

脳研究所附属統合脳機能研究センター 中田力教授



## ヒト腎臓・ 尿プロテオーム プロジェクト

このプロジェクトは、ヒトの全タンパク質（プロテオーム）の解明を主導する国際機構、Human Proteome Organization (HUPO) のプロジェクトの一つで腎臓・尿プロテオームの解析を国際連携で行っています。山本はそのProject chairです。

医学部 山本格教授



## 過疎・高齢化の進む 中山間地で頑張る “小国町森光集落”

農学部と協定を結んでいる長岡市小国町の一集落「森光」は、押し寄せる過疎・高齢化問題にブランド米の通販やグリーンツーリズムを展開して果敢に戦っており、緑豊かな自然と棚田を保全する活動には学ぶところが多くあります。この集落は19年度のむらづくり活動で農林水産大臣賞を獲得しました。

農学部 福山利範教授



## 日本海沿岸地域の 伝統的な漁撈習俗と その成立

民俗学者柳田国男の著書『北小浦民俗誌』の舞台となった地域で、お年寄りから話を聞きながら海の文化を考えてみませんか。時には魚釣りを体験しながら、地域の人びととの交流をしましょう。島人は心温かいですよ。

人文学部 池田哲夫教授

## 親と子の建築講座

本講座は、日本建築学会と県建築士会の主催で年3回(9月~11月)開講しています。体験・実習を通して建築を理解するという講座内容で、参加者と実行委員スタッフとの協同作業で作品を仕上げることが多いです。

教育人間科学部 五十嵐由利子教授

## 西区DEアート

「西区DEアート」は新「西区」のスタートを記念する芸術プロジェクトです。住民とアーティストと大学生の緊密な協働で、この地域に新たな絆をつくるために多様な活動を続けてきました。10月末企画は終了しましたが、これから次年度に向けて準備を始めます。

教育人間科学部 近藤フヂエ教授

## 新潟デジタル・メディア研究会

新潟という地域における各種の情報メディアのあり方について、業界や企業の垣根を越えて自由に議論と情報交換を行うような場を、大学と関連産業、行政、さらには一般市民の方々も交えた形で培っています。

人文学部 北村順生准教授

## 良寛さんを通してみる和の心

癒しやなごみを生活に求めるべく、良寛を典範としてそのゆかりの地を実地見学します。生地や庵跡等、出雲崎や五合庵及び周辺資料館を訪れ、各地良寛会を中心とする地域の人々との交流も併せて行います。

教育人間科学部 岡村浩准教授